

すずかみ通信 No.13

1982.6.1

行徳野鳥観察舎会報



川瀬やい子 () リスオオモリの会より
かすかな朝やけの遠くの海から黒いたつまきかわさあかり空に
広がる青空かな金鏡の青色した羽音かだんだん大きくなり私の頭上
を通りぬけ、また小さくなる。

一瞬、すべてを忘れてすいはせられる。心はからだを離れて、ズズ
ガモといしょに空を舞う。

ヌヌ眼鏡なんていない。両目をいいぱいに開けて何百羽かあり
なす自然のセレモニーを目の中に焼きつけた。目といいやせい金鏡の音を聞く。
これが「命をねらう獵師から逃れるための行進だ」なんて!!

はおと

愛鳥週間をおえて <田久保晴孝>

今年も愛鳥週間には、各地で113113な行事が行なわれ、愛鳥思想の普及につとめていた。

野鳥観察会でも5月(16日)に、県の方の応援をえて、特別園内探鳥会や映画の会、ビデオの会などが行なわれ、2日間で市川市民をはじめとして各地から2000人以上の来館がありました。職員の方、お会いいただいた方ごくろうさまでした。

なお、両日には、蓮尾純子さんデザインによるコマニサンの記念バッヂが来館者にくばらされました。(とてもすてきなバッヂです)

愛鳥週間は、昭和22年4月10日ハードにてはじまり、昭和25年から現在のような週間にになりました。目的は、野山や水辺で、野鳥に親しみ自然(野鳥)を保護することを広めることです。愛鳥とはもちろん野鳥をカゴでかわいかることではありません。カゴでかうことは、人間のか一方的な楽しみであり、野鳥にとっては、まことに残酷のことです。

真の愛鳥とは、やはり生息地を開発などから守ることではないでしょうか。人間が生物である以上、自然との交通のある生活でなければ円満な社会をきずくことは「さがれ」です!

野鳥と接するには、野鳥をいじめないようにして、っと観察することが大切です。水やエサや巣箱を与えると鳥の方からやってきます。

野鳥は国民全部の共有自然文化財のはずですが、毎年1000万羽もハスターにて殺されています。またサギなども有害鳥駆除ということで、巣をこわされたり殺されたりしています。

そして、各地の湿地(埋立地、休耕田など)や雑木林が宅地造成において生き残り、そこに生息していた野鳥の生活場をうながしている。一見無害にみえたこれらの土地からでも、たくさんの生物が生きています。そのよせまし、たとえが、そのままにしてやさしく他の人にあめていきましょう。愛鳥週間は終わりましたが、野鳥はこれから繁殖シーズンには(11月)、埋立地、アレ原、休耕田、林、在などいろいろな形でヒトモ育っていますよ!

さえずり (行事に参加して)

<4月新潟自然観察会に参加して>

この前は、初めて鳥をみる会に参加させて頂きました。
お天気に恵まれ、楽しく1日でした。特に友の会の方々のご親切には本当に感謝致しております。おかげさまで少しはお利口さんになれたのではないかでしょうか? 私達よりは珍達にこんな機会をたくさんあたえたく思っております。 村瀬、安生()

<5月新潟自然観察会>

かねがね野鳥観察に興味をもっていたが、観察会に参加するのは初めて、思つたより簡単に見れるので一安心。35種を確認。

これも、ベテランの皆様のリードのせいか、高樹冠で単独で双眼鏡片手に山の野鳥観察を試みたが、二時余り山中にいて、一羽も着陸せず観察できず徒労に終った。

松岡宏昌()



スズメの「四百」くん

蓮尾純子(観察会)

5月のある日のこと、窓から外をのぞいていた原君(行徳小六年)が、いきなり「白鳥がスズメをたぐちゅた！」と叫んで出ました。食事場のタライで水をのんでいたコアハクショウの若鳥か、ではにきたスズメをさしあげました。スズメは、タライの水の中で弱音をうになづかがいでいる原君たちに、助けられたスズメは、ドライバーでかわかすと元気をとりもどしましたが、飛ばさといだらしく、ちゃんと飛べません。

すぐ教せるとあってつけた環境省の標識番号が「030-7540」以来スズメの「四百」くんは、入院患者の一羽となりました。

ところが、この四百くん、なかなかのりこもの、えさをやるためつかまえようとすると、巣箱のすみでじっと身をすくめ、いまやつかひますという段になるとぱっと飛び立ってにげ出します。かくして、自分で出して研究室の片すみにかくれ、決まって出てさせん。1時間ほど静かに仕事をしていくと「カサ」というかすかな音。それ、しばらくくんで行っても四百くんはせまいすぎます。すると、次のかくれ場所、こういうひくひんを日に2~3回。当たっては、神経すり減ります。四百くんはずもなく退院予定。早く出て行ってくれ!!



自然の里から③

干潟の生き物たち

田久保文子



行徳は、一点に立ちどの方角に向かって歩いて必ず歎息口行くと水辺にあるたるはずです。それだけ潮と川に囲まれた土地でありながら、水にふれて遊びが楽しめるところといつたらちは江戸川放水路のわざわざある干潟しかないようです。

先日、堤を歩いていると、水はまだ大きいというのに元気いっぱいの男の子が泥水にかかり、トビハゼをつかまえよう、はしゃいでいる姿を見ました。私も見下ろしているだけではつまらないと、仲間入りをしてみましたが、しばらく泥の上をピョンピョンとはねるトビハゼをつかまえるのは容易ではなく、あきらめてチゴガニをつか

まえることにしました。この力二は両方の手を上げたり下げたりしてまるで体操をしているように見える力二です。のろみな私でもなんとか2匹つかまえることができました。

堤から見ただけではただの泥地であっても一步足を踏み入れるとトビハゼチゴガニのほかにヤマトオサガニ、ウミニアなどが見られ、少し掘ってみるとオキシジミやアサリをみつけることができます。また船着場に行くと代についたフジツボやムラサキガイ、フナムシを見ることがあります。どれもつかまえたものは持ち帰りたくなるのですが、持ち帰ればこの小さな池は2,3日のもの、かわいそうと元に返してあ

げました。私でも水にふれ生き物にふれて遊ぶのは楽しいものです。子供達にとつら毎日遊ってもあきれない魅力のあるところのはず、水の冷たさを忘れ、ズボンもズボンもどろどろにして遊んでいる男の子の気持ちがよくわかるのです。20年くらい前までは広大に広がっていた新潟の干潟をすべて埋めつくし壁にしてしまえば、少しでも入りの進干潟の生き物の島に残してしまいました。だから思わずにはいられない日々でした。

行事 東内

だれでも自由に参加できます。

新潟自然観察会

6月13日、7月11日、8月8日(日)

(毎月第2日曜日)

集合: 東西線行徳駅広場 9時30分

解散: 野鳥観察舎前 午後2時30分±3

案内: わざわざ残されている妙典地区的
湿地や保護区で、バン・カレガモ・サギ
などの水鳥を中心に動植物の観察
をします。(午前中は戸川放水路、妙典の湿地
を観察し午後は保護区を観察する予定)
弁当、水とう、雨具など各自お持ちなさい

定例園内せん観察会(観察舎主催)

6/6・20, 7/4・18, 8/1・15 第2回

集合: 野鳥観察舎前 6月 午後1時30分
7月8月 午後3時解散 " 6月 4時±3
7月8月 5時±3∴ 7月、8月は暑いため
時刻を下り下げて午後3時集合

観察舎より

開館午前9時～午後5時；休館毎週月曜日、毎月末金曜日

(月曜日が祝日の場合は開館し、火、水曜日連休)

建築中(3つ目)の鳥の病院(Hゴヤ)が完成しました。今 オオカガモ、アオアシギ、エジカモ
メなどが入っています。ぜひ来館のおりにはトリゴヤ観学して下さい。

事務局

今年度の会費をお求め下さい。年会費普通1000円 賛助2000円以上

(観察舎においても会費を シュニアード500円(小・中・高校生)
あずかられます)観察舎では、野鳥に関する本、食はかき、レターセット、鳥のマスコット、絵はかき
(各4枚 150円)などの販売を行っています。

今、次の会でシールを発行する企画が進行しています。(スザン、飯島氏(県野鳥会))

募集キャラクター

これまで、鳥の繁殖の季節、道端でもいそがしくなります。(満月・ケガハイ)
少しおくれて申わけありませんでした。カットをどうぞ送り下さい。(はるたか)

すずかも通信 発行人 龟谷 栄

No.13

1982年6月1日発行

〒971-6129

年会費 1000円

事務局 鈴木 有子

編集人 田久保 晴春子

観察舎 T272-01

市川市福栄4-22-11 TEL 0473(97)9046